

新日本カレンダー株式会社 三田工場

2009年度 (2009年4月~2010年3月)

環境活動レポート



07年度環境活動に対する全社表彰記念植樹 『えこ桜』



ごあいさつ

私ども新日本カレンダーは、1922年の創業以来、88年の間、カレンダーの製作・販売を通じて皆様との関わりを持たせて頂き、企業としての歩みを進めてまいりました。

おかげをもちましてカレンダー事業のみならず、ペット用品の通信販売事業も立上げ以来16年で、多くのお客様にPEPPYブランドとして認めて頂ける事業に成長してまいりました。

そうした皆様のご愛顧にお応えする意味でも07年9月に認証・登録を頂いた三田工場のエコアクション21の活動を中心にして、環境保全に対する関わりを更に積極的に進めここに09年度の環境活動レポートとして当社の環境活動を皆様に公表させて頂きました。



カレンダー・団扇



ペピイ通販カタログ

09年9月に鳩山総理大臣が国連気候変動サミットにおいて表明された新しい温室効果ガス削減目標に少しでも貢献出来ますようにカレンダー部門の製造・出荷、ペピイ部門（ペット用品の通信販売事業）の出荷はもちろんの事、工場全般の事業活動を行う中で環境への負荷の低減・環境法令の順守を最重要事項と定め、従業員への周知徹底を図りながら様々な活動の展開を行っています。

3年目を迎えたエコアクション21の活動もまだまだ不十分な部分が有りますが、活動自体が各現場末端へ定着した実感を感じるレベルにもなりました。又、最重要課題でも有るCO₂排出量の削減でも基準年(05年)対比 37%の成果を出す事が出来、当社のCSR（企業の社会的責任）に欠かせない活動の柱になってきています。

本報告書を通して当社の環境に対する取組みの考え方と日々取り組んでいる環境活動の現状とその成果を皆様にもご理解頂き、ご意見・ご感想を頂戴しながらより一層内容を充実させていく所存でございますので何卒宜しくお願い致します。

代表者

常務取締役 三田工場長 奥村 豊

環境方針

環境保全が経営・工場運営の重要課題である事を踏まえ、環境経営システムを構築・運用し、工場一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

当工場のカレンダー・団扇の製造及び出荷、ペット用品通信販売の出荷の事業活動における環境負荷低減の為、行動指針を次のように定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立てて、継続的改善に努めます。

脱地球温暖化社会のため二酸化炭素削減（省エネルギー）

環境に配慮した製品の開発・生産と設備増強

廃棄物等、排出量の削減

省資源化の推進（含む節水）

非トラック路線便の活用確保

社外の環境保全、啓蒙活動への積極的な参画

当工場働く全ての従業員にこの環境方針を周知します。

2006年10月16日
(2008年2月2日 - 改定)

常務取締役 三田工場長 **奥村 豊**

登録事業所の概要

(1) 事業者名及び代表者

新日本カレンダー株式会社 三田工場
 常務取締役 三田工場長 奥村 豊

(2) 所在地

兵庫県三田市テクノパーク5 - 9

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表者 工場長：奥村 豊	TEL：079-568-3344
責任者 副工場長：山見 隆史	TEL：同上
担当者 生産管理2部：高田 真由美	TEL：同上
生産管理課：西川 英利	TEL：同上
商品管理課：岡 達也	TEL：同上

(4) 事業内容（認証・登録の範囲）

当社三田工場

カレンダー・団扇の製造及び出荷、ペット用品通信販売の出荷

* 範囲外事業所 本社・九州支社・名古屋支社・東京支店・鹿児島工場・丸亀工場・北関東カレンダー物流センター

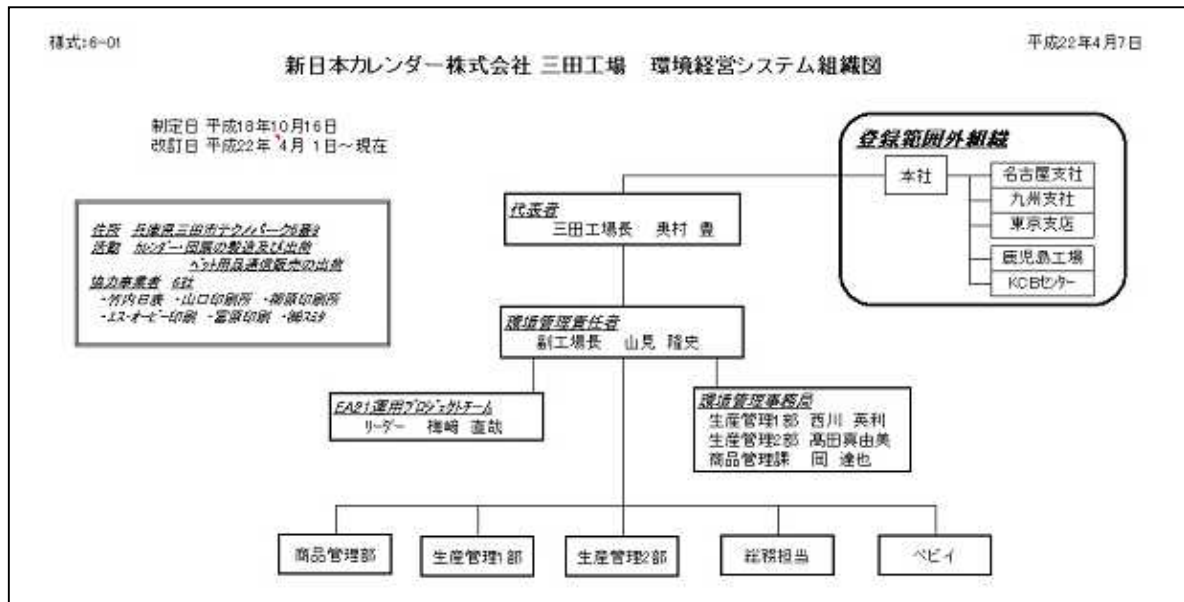
(5) 事業の規模

製品出荷額 59億円/年（基準年05年：62億円/年）

従業員 127名（内、協力事業者4社17名）

工場延べ床面積 17,054 m²

(6) 環境管理体制



(7) 環境経営システム構築状況

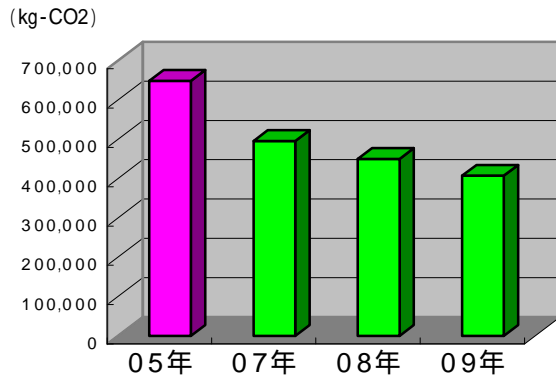
登録範囲外組織については、事業所毎に順次、認証・登録の準備に取り掛かっており、東京支店（11年02月申請予定）を皮切りに12年12月には全事業所の認証・取得を目標に構築を進めている。

主な環境負荷の実績

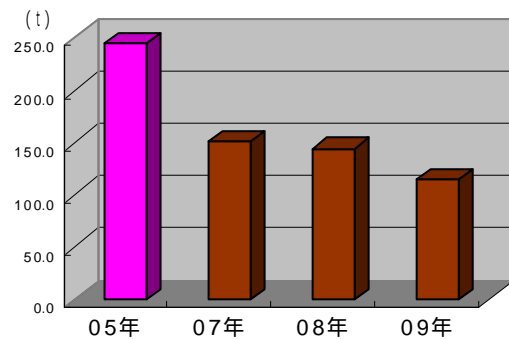
項目	単位	2009年		2005年(基準年)
		値	削減率	値
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ / 年	407,483	37.2%	648,853
化学物質保管・排出・移動量	kg / 年	861.8	12.9%	989.7
(保管量)	kg / 年	(23.5)	(74.3%)	(91.4)
(排出量)		(821.3)	(6.2%)	(875.7)
(移動量)		(17.0)	(25.1%)	(22.7)
産業廃棄物排出量	t / 年	114.5	53.2%	244.9
一般廃棄物排出量	t / 年	5.5	35.8%	8.6 (2007年)
(単純焼却一般廃棄物排出量)	t / 年	(3.5)	(+6.0%)	(3.3)
(再生利用一般廃棄物排出量)		(2.0)	(62.3%)	(5.3)
総排水量	m ³ / 年	1,533	55.4%	3441

主な環境負荷の推移 (基準年・活動初年度・活動2年目・活動3年目)

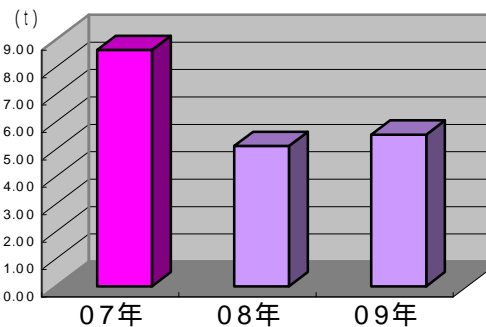
【CO₂ 排出量】



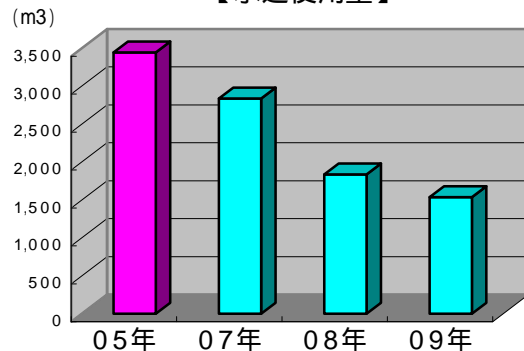
【産業廃棄物排出量】



【一般廃棄物排出量】



【水道使用量】



環境目標及びその実績

年度 項目	2005年		2007年	2009年		2010年	2011年	
	(基準年度) 2月～翌1月			(目標) 4月～翌3月	(実績) 4月～翌3月	(目標) 4月～翌3月	(目標) 4月～翌3月	
二酸化炭素の削減	kg-CO ₂	648,853		439,286 (32.3%)	407,483 (37.2%)	393,775 (39.3%)	382,773 (41.0%)	
電力の削減	使用量 (kwh)	1,401,073		1,134,869 (19%)	1,057,905 (24%)	1,023,000 (27%)	995,000 (29%)	
鉄道輸送・チャーター便の確保 (減少の歯止め)	総数 (台)	653		600 (8%)	613 (6%)	580 (11%)	560 (14%)	
再生材料使用アイテム増 (団扇骨)	総数 (本)	541,000 (非再生 G 骨 2,054,236)		全数Iマークへ	2,329,354 (非再生 G 骨 113,327)	全数Iマークへ	全数Iマークへ	
再生材料使用アイテム増 (再生紙使用カレンダー)	総数 (点)	102		120 (+20%)	119 (+19%)	125 (+23%)	128 (+25%)	
再生材料使用アイテム増 (エコ製本)	総数 (点)	34		63 (+85%)	58 (+71%)	68 (+100%)	72 (+111%)	
一般廃棄物の削減	総量 (t/年)		8.6	4.7 (46%)	5.5 (36%)	5.1 (41%)	4.7 (45%)	
産業廃棄物の削減	総量 (t/年)	245		135 (45%)	115 (53%)	108 (56%)	103 (58%)	
有価物の削減	総量 (t/年)		539	512 (5%)	467 (13%)	460 (15%)	442 (18%)	
省資源	コピー用紙使用量削減	使用量 (枚)	346,000		214,520 (38%)	205,000 (41%)	201,000 (42%)	194,000 (44%)
	ガソリンの削減	使用量 (L)	5,222		4,439 (15%)	3,199 (38%)	3,050 (42%)	2,870 (45%)
	節水	総量 (m ³ /年)	3,441		1,686 (51%)	1,533 (55%)	1,450 (58%)	1,380 (60%)
	環境配慮型製品購入拡大	購入品全般見直 (アイテム)	55 (2008年)		61 (+10%)	61 (+10%)	63 (+15%)	66 (+20%)
地域への環境配慮	テクノ会環境保全委員会への積極的参加			クリーンデー (毎月)	実施済 (毎月)	実施	実施	
				拡大クリーンデー (6・12月)	実施 (6.12月)	実施	実施	
	工場クリーンデーの開催 (8月)			実施	実施 (8月)	実施	実施	

事業決算は1月であるが 2・3月は当年度製品見本の製作がピーク時期と重なるため、

承認登録月が9月であるため、2009年度以降は環境活動の取りまとめは4月～翌3月の1年間とする

環境活動の取組み状況と評価

事務局活動実績		
日付	活動実績	評価(結果と今後の方向)
09年4月	運用プロジェクトEチーム立上げ 第1回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 奥村・事務局2名・ Aチーム2名・Bチーム2名・Cチーム3名・Dチーム3名・Eチーム2名 計15名	活動開始から丸3年が経過し、毎月のプロジェクトミーティングの事前準備・全体朝礼での全従業員への連絡・報告・環境掲示板への実績掲示・運用チームへの新たなアイデア・取組みの提案・法令遵守の為の情報収集・各種資料のとりまとめなど、環境管理事務局としての役割が明確となり、その責任を確実に果たしていくことが出来た。10年度は、事務局メンバーを1名増員の3人体制とし、今まで以上の品質・内容・精度をもって、その責任を果たすことで、工場全体の活動・意識のパワーアップ・レベルアップにつなげていく。
09年5月	第2回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 ECO検定受験者数決定(45名) 緊急事態対応訓練の実施(避難訓練・消化訓練) ㈱環境保全センター見学〔13名〕	
09年6月	第3回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 2009年度EA21全体研修会実施(6/18・6/19) 全体研修会実施後プロジェクトチーム別へアンケートの配布	
09年7月	第4回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 緊急事態対応訓練の実施(低圧漏電時の対応・汚水処理設備自動停止時の対応・異常水発生時の対応) エコ検定受験43名(内三田工場34名)	
09年7月28-31日	更新審査	
09年8月	第5回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催	
09年9月	第6回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催	
09年10月	こども環境フォーラム入会	
09年12月	新人社員研修の実施(3名)	
10年1月	第7回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催	
10年2月	第8回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 チームマイナス6%からチャレンジ25キャンペーンへ変更登録	
10年3月	第9回EA21運用プロジェクト全体ミーティング開催 2010年度分のエコバッグを100個手配 エスク三ツ川㈱リサイクルセンター見学(18名) リサイクル可能クラフトテープの採用検討	

各チーム活動内容

- Aチーム：電力の削減
- Bチーム：コピー用紙・ガソリンの削減
- Cチーム：産業廃棄物の削減
- Dチーム：一般廃棄物・有価物の削減
- Eチーム：社外への環境保全活動



エコ検定 34 名受検 (7月)



EA21 全体研修会 (6月)

本年度環境目標・活動計画と評価

	目標	達成手段	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素の削減	<p>電力の削減</p> <p>基準年 1,401,073kwh 2009年度 1,057,905kwh(24%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蛍光灯の変更(3,500本)(40w 36w)順次交換 ・ 冷暖房の温度設定見直し(区画毎に設定) ・ 3F断熱材敷設工事拡大 ・ 蛍光灯の消灯 ・ 蛍光灯手元スイッチ導入 ・ 待機電力の削減 ・ 蛍光灯間引き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 09年度11%程度36wに交換済(全体で44%程度変更済) ・ 各フロア、区画毎に冷暖房の設定温度・使用状況、室温の見回りを実施し、全体朝礼にて告知、必要に応じて設定温度改善済 ・ 見回りチェックリスト作成(7月) ・ 設定温度表、エアコンスイッチ箇所の設置図を作成(3月) ・ 3F 団扇製作区画屋根裏に断熱材敷込工事实施済(4月)空調効率アップ ・ 各フロア蛍光灯不在時消灯状況の見回り・全体朝礼にて呼掛け ・ ペイイ休憩時間の消灯開始(3月~) ・ 3F 名入加工課・1F 日表印刷場 計 32 箇所へ手元スイッチ取付け(8月) ・ バッテリーハンドリフトの充電器コンセント、食堂TV、OA・物流のドットプリンター未使用時コンセント・電源 off の実施と運用状況の見回り・全体朝礼での告知 ・ 2F廊下・3F仕分場の蛍光灯間引継続(18w7本、20w6本、36w24本)(08年度継続) 	<p>電力削減目標19%削減に対し24%削減達成(目標1,134,869kwhに対し1,057,905kwh)</p> <p>従業員への負担が大きく、また効果も大きいエアコンの設定温度・使用状況確認について、冷暖房切替時期での表示の切替と全体朝礼での案内・毎月の遵守状況の確認・見直し・チェックリストを作成し、誰が見ても判断出来るようにするなど、細かな活動で効果を出し、また従業員の意識向上へも繋がっている。また手元スイッチの設置、未使用時のコンセント抜き・電源 OFF・休憩時間の消灯拡大など新たな活動にも取組み、効果を出すことが出来た。</p> <p>10年度は、エアコン設定の使用状況確認など節電活動の継続と、外灯のLEDへの変更検討など設備面での見直しも含め、活動を行っていく。</p>
	<p>鉄道輸送・チャーター便の確保(減少歯止め)</p> <p>基準年 653台 2009年度 613台(6%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 得意先・営業への大口出荷拡大アナウンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13t車利用拡大は積極的に運用継続 	<p>鉄道輸送・チャーター便出荷台数目標8%減少迄に対し6%減少に抑え目標達成</p> <p>鉄道輸送・チャーター便出荷台数目標8%減少迄に対し6%減少に抑え目標達成</p> <p>07年度より開始した13t車の運用が定着し、また新たな納品先で積み合わせでのトラック出荷を積極的に推し進めたことで、自然減をカバーすることができ、目標をクリアできた。</p> <p>10年度は、今まで以上に働きかけないと更に減少が進む可能性があるため、営業への働きかけの更なる継続を行っていく。</p>

環境に配慮した製品の開発・生産と設備増強	再生材料使用品のアイテム増（再生団扇骨） 基準年 541,000 本（非再生 G 骨 2,054,236 本） 2009 年度 全数再生団扇骨へ	・非再生 G 骨全てエコマーク骨へ移行継続	・2010 年度団扇骨全数エコマーク骨で発注済 ・エコマーク骨のエコマーク基準遵守確認済	今年度も団扇製作予定数 244 万本全数エコマーク骨継続予定であったが、客先指定の非エコマーク骨約 11 万本（環境配慮材）を製作。客先指定以外は全数エコマーク骨で製作。
	再生材料使用品のアイテム増（再生紙） 基準年 102 点 2009 年度 119 点（+19%）	・再生紙使用のアイテム拡大 ・植林木・森林認証材の使用拡大	・2010 年度再生紙使用のアイテム数 111 点で決定 ・2010 年度植林木・森林認証材の使用 81 点で決定（09 年度 89 点）	今年度目標 121 点に対し 119 点 （1 点減・達成率 99%） 再生紙の使用に加え、森林認証材・植林木の配合紙使用も 08 年度より継続。
	再生材料使用品のアイテム増（エコ製本） 基準年 34 点 2009 年 58 点（+71%）	・エコ製本のアイテム拡大 ・エコ製本の名入設備開発継続し、本番エコ化推進 ・エコプレス設備更新し別製エコ製本化に対応できるキャパ拡大 ・輪転月表エコバインド商品のアイテム増	・09 年度エコ製本 5 点減少（08 年度 63 点） ・名入加工課カブリ 7 台の内 1 台をエコプレス対応可能に改造済 ・月表製本課にエコプレス製本機を新規導入済（3 月） ・輪転月表でエコ製本製品 1 点増加	今年度目標 63 点に対し 58 点 （5 点減・達成率 92%） 2010 年度はエコ製本製品 10 点増加決定（68 点）。 2010 年 3 月末、月表製本課にエコプレス製本機を新規導入済（年間） 名入加工課カブリ 7 台の内 1 台をエコプレス対応可能に改造済。10 年度は更に 3 台を改造予定。
	その他	・社外協力会社の SOY インクの使用要請 ・前年度カレンダー残品によるリサイクル再生紙の抄造拡大	・非 SOY インク使用 7 社へ訪問時、SOY インクの使用要請（6 月） ・外注会議時に「SOY インク使用要請」と「SOY インク使用時の注意事項」伝達（8 月） ・当社前年度残品用紙のリサイクル再生紙を使用製品 3 点採用（09 年度 2 点） ヘッダにもマニラ台紙残品のリサイクル再生紙を使用	2010 年度カーボンオフセット対象製品を 09 年度対比 1 点増の 7 点（月表 6 点・卓上 1 点）採用決定。内、輪転月表も 2 点採用。 2010 年度、カレンダーリサイクル商品も 3 点継続。



エコプレス製本機導入



協力会社へ SOY インク使用要請

廃棄物の削減	<p>一般廃棄物の削減 基準年 8.6t 2009年度 5.5t(36%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペットフードの再資源化 ・ 分別状況見回り ・ 業者との契約引取量見直し ・ 「環境の日」の持込ゴミ持ち帰り継続 ・ 焼却ゴミの減量 ・ エコキャップ回収運動 ・ マイコップ推進運動（紙コップ使用量削減） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペットフードの田中飼料(株)持込開始（8月～） ・ 賞味期限が近いペットフードの新規配布先発掘 ・ 各課分別状況の現場パトロール実施（4月） ・ 繁忙期契約引取量の再計量・再契約（9月） ・ 閑散期契約引取量の再計量・再契約（1月） ・ 毎月21日工場内「環境の日」に持込ゴミ持ち帰り継続 ・ ペビイでホカ弁容器の業者引取継続（約500g/日） ・ 回収ボックスを中身が見易く目立つものに変更、運動の説明資料貼出（4月） ・ 全体朝礼での呼掛け実施 ・ 送付実績公開（三田市で2位） ・ 全体朝礼・ペビイ朝礼にて呼掛け ・ 名入加工課にマイコップ置場を新設（4月末）マイコップ使用の呼掛け実施（6月） ・ 給茶機にマイコップ・湯のみの使用案内貼出（8月） ・ マイコップ・紙コップの使用実態調査実施（2月） 	<p>一般廃棄物削減目標46%削減に対し36%削減（目標4.7tに対し5.5t）</p> <p>毎月の朝礼での、マイコップ使用の呼びかけ・エコキャップ送付状況報告・環境の日の持込ゴミの持ち帰り継続など、従業員への周知活動をこまめに行うことで、一般廃棄物の削減は進んでいる。09年度はペットフードの在庫・出荷方法がメーカー直送から、三田工場に在庫し出荷と変更となり、賞味期限切れによる廃棄量が増加した為、目標クリアができなかった。（廃棄方法としては、専門業者へ持ち込んでのリサイクル）</p> <p>10年度は、ペットフードの廃棄量の問題がつかまつものの、それ以外の活動継続で一般廃棄物の削減を進めていく。</p>
--------	--	--	--	--



田中飼料(株)見学



持込ゴミ持ち帰り推進ステッカー



エコキャップ回収BOX

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">廃棄物の削減</p>	<p>産業廃棄物の削減 基準年 245t 2009年度 115t(53%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー残品の減量（減量と再利用） ・完成品残品の削減（金具廃棄削減） ・水棒の再利用 ・プラスチック圧縮機の設置検討 ・有価物紙くず専用カゴの設置 ・リサイクルウエスの利用検討 ・洗濯ウエスの使用開始（ウエスの再利用） ・産廃中間処理業者見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・NK474 プラと台リング・NK364CDと封筒・NK520～523 フレームと封筒・NK481 プラハンガーと化粧箱を従来通り再利用継続（1月） ・カレンダー残品量を前年度対比 40%削減 ・名入加工課で使用済の水棒を洗濯して油の吸い取りとして再利用開始 ・スギヤス東大阪工場にプラコミを持込み圧縮テスト実施（操作・結束テスト等）約 5 分 1 に圧縮可能（7月） ・圧縮機見積り、設置箇所の検討、コンセントの電気工事も合わせて見積り（7月） ・産廃紙くずを分別して有価物に、物流管理課に 5 箇所設置（8月）物流課朝礼時に分別の依頼（9月） ・回収量の計上（9・3月） ・現状買取 処分しているウエスのリース化検討、名入加工・おセット・月表製本でテスト使用 ・名入加工課で使用開始（9月） ・月表製本課製本機で使用開始（3月） ・環境保全センター(株)見学、プロジェクトメンバー 13 名参加（5月） ・エクス三ツ川(株)見学、プロジェクトメンバー 15 名・本社 2 名参加（3月） 	<p>産業廃棄物削減目標 45%削減に対し 53%削減達成（目標 135 t に対し 115 t）</p> <p>カレンダー残品の減量については基準年対比で 48.5%、前年度対比で 40%削減ができた。</p> <p>カレンダー残品減少の影響が大きいですが、有価紙くずの分別開始、洗濯ウエスの使用部署拡大など、地道な活動を継続し、目標クリアに貢献できた。</p> <p>10年度は、受注予測の精度を高め、また生産能力のUPをもってカレンダー残品の更なる削減に努める。また有価紙くず分別の拡大とプラスチック圧縮機の導入検討を更に進めていく。</p>
---	--	---	--	--



有価物紙くず専用 BOX



環境保全センター(株)見学

<p>廃棄物の削減</p>	<p>有価物の削減 基準年 539t 2009年度 467t(13%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダー残品の減量(減量と再利用)継続 ・カレンダー印刷用白紙用紙サイズの縮小(余白部分の削減) ・ダンボールの削減 ・ダンボールの削減継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・月表課吊り札 24,000枚を残紙で作成 ・竹内日表でのエコカレンダー名入予備製本数削減継続 50 20冊へ(年間約 2t削減) ・SNC IフィットM 四六<70><69>へ ・NPI エンボスヌノメ四六<110> <108>へ ・上記用紙 2種で年間使用量 931.25KR(1.12t)の削減 ・ペピイの特定廃棄予定ダンボールの物流ケース緩衝材への代替え検討 ・ペピイ商品の外ケース一部通い箱化検討(Pボード使用)(3月) ・日表課の西山金属金具ケース(11号・12号・別横)を通い函化(200kg/年以上削減)・ペピイペットフード使用済ダンボールの物流緩衝材へ再利用・物流1部売り用20入ケース再利用・オフセット課の刷版入れダンボール通い函化・月表課の西山金属金具ケースの業者引取・生産管理課 本社の原稿送付を通い函化・各印刷所への原稿送付に使用済オビ再利用・ペピイ緩衝材製造機紙芯の業者引取継続 	<p>有価物削減目標 5%削減に対し 13%削減達成 (目標 512t に対し 467t)</p> <p>カレンダー用紙サイズの縮小や各課使用ダンボールの通い箱化を積極的に推し進めた。特にダンボールの通い箱化については、各課の細かい使用状況にまで踏み込み、少ない量であっても積極的に実施し、また毎月の状況確認もこまめに行うことができた。</p> <p>10年度は、廃棄予定ダンボールの物流緩衝材への再利用を実施し、また Pボードを使用した新たな通い箱化を進めていく。</p>
---------------	--	---	--	---

省 資 源 化 の 推 進	<p>節水</p> <p>基準年 3,441 m³ 2009年度 1,533 m³ (55%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限前年度数値の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度以前の活動を継続 	<p>節水削減目標 51%削減に対し 55%削減達成 (目標 1,686 m³ に対し 1,533 m³)</p> <p>新たな活動は行っていないが、削減できていることに対し、従業員の節約意識向上の表れであると判断できる。</p>
	<p>コピー用紙使用枚数削減</p> <p>基準年 346,000 枚 2009年度 205,000 枚 (41%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙の使用削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙発生枚数のカウント方法見直しを実施 ・名入課日報関係・夏物吊札 9,000 枚 (B5) 月表製本課日報 10,000 枚 (B5) を残紙利用へ 	<p>コピー用紙使用量削減目標 38%削減に対し 41%削減達成 (214,520 枚に対し 205,000 枚)</p> <p>今までの裏紙確保に加え、残紙に印刷し裏紙とすることで、裏紙の枚数を増やし、新品用紙の購入量削減につながった。</p> <p>10年度は、同様の活動に加え、使用枚数自体を削減する為の啓蒙活動を展開していく。</p>
	<p>ガソリンの削減</p> <p>基準年 5,222L 2009年度 3,199L (39%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフトのバッテリー化 ・エコドライブの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期、カソリン車 4 台 ガソリン車 2 台・バッテリー車 2 台へ変更 ・給油時の走行距離・ガソリン購入量の記録・燃費算出開始 ・社用車へ燃費計の設置検討 (2010 年実施予定) 	<p>ガソリン削減目標 15%削減に対し 39%削減達成 (目標 4,439 L に対し 3,199 L)</p> <p>リース契約のフォークリフトをバッテリーリフトに変更したことが大きく影響した。社用車の給油量・走行距離記録をつけていくことで燃費算出が可能となった。</p> <p>10年度は、バッテリーリフト使用の継続、社用車は燃費計を活用し、エコドライブを目に見える形にすることで、燃費の向上を図り、ガソリンの削減につなげていく。</p>
	<p>グリーン商品購入</p> <p>基準年 (2008) 55 点 2009年度 61 点 (+10%)</p>	<p>購入品全般見直し (購入目標・基準の立案・実施)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4～8月 3点増加済 (インデックス・軍手・マッキー) また、上記以外でインクジェットプリンターの使用済インク容器の回収開始 ・9～3月 3点増加済 (カッター・ホリバッグボックス・シュレッダー機) 	<p>今年度目標 10%増に対し 10%増加達成 (6 点増・達成率 100%)</p> <p>前年度は実績把握まで至らなかったが、今年度は前年度数値を基準として目標立案、達成できた。商品購入時のグリーン購入意識が定着した。</p>

社外環境保全・啓蒙活動への参加	社外環境ボランティア活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・社外環境活動チームを立上げ、活動開始 ・チャレンジ25キャンペーン登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・三田市まちづくり協働センターを訪問、清掃・里山保全活動の提案と資料入手（4月） ・NPO 法人キッピーフレンズ訪問（6月）有馬富士登山コースの案内・森林整備の状況・有馬富士公園内の森林整備団体（緑の環境クラブ・森遊クラブ）の担当区域の案内を受ける（7月） ・緑の環境クラブ主催有馬富士公園下草刈りに参加（緑の環境クラブ約10名・プロジェクトチーム5名参加、9月） ・六甲山系グリーンベルト整備事業への参画検討 ・森の世話人活動事務局（株式会社総合環境計画）へ問合せ、資料取寄 ・チームマイナス6%からチャレンジ25キャンペーンへ変更登録完了、引き続き県内ボランティア活動等の情報収集を行う 	<p>全くゼロからのスタートであったが、資料集め・情報収集から開始し、9月に第一回目の活動実績を作り、小さな活動ではあるが、大きな一歩踏み出すことができた。</p> <p>10年度は、活動範囲を広げ、参加者もプロジェクトチームだけでなく一般の従業員へも積極的に参加を呼びかけ、更にもう一歩を踏み出していく。</p>
	テクノ会環境保全委員会への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノクリーンデー（毎月）・拡大クリーンデー（年2回）の実施 ・その他テクノ環境保全委員会の取り決め事項の履行 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノクリーンデー：毎月工場内「環境の日」に実施、拡大クリーンデー：6月・12月実施済 ・各種取り決め事項を順次実施済 	全件予定通り実施済。工場内「環境の日」のクリーンデー実施は昨年度から継続、従業員の環境意識高揚へ繋がっている。
	工場クリーンデーの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・工場クリーンデーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月実施済（全員参加） 	終日工場内の清掃に取り組めた。10年度も継続実施し全館の換気扇・エアコンフィルターの一斉清掃をする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・工場裏側側面の樹木伐採 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場裏側側面の樹木剪定作業実施済（7月） 	予定通り実施済。
その他	包装の簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ・B2 製品のオビ・バンド廃止継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸転品番・B2 製品についてムジ・名入・ユーザ直送分に関わらず、輸転品番・B2A 式透明テープのオビ・バンド廃止、B2 カプセ・B2A 式ガムテープのオビ廃止継続 	B4 オビ・B2 オビ使用出荷分の削減を引き続き行っている。
	環境関連設備の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・汚水処理施設の設備更新検討 ・3F 断熱材敷設拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリポンプ・配管の修繕、排水助剤設備取付工事実施済（10月） ・3F 団扇製作区画屋根裏に断熱材敷き込み工事実施済（4月） 	3F 団扇製作区画屋根裏に断熱材敷き込み工事実施で、空調効率アップと作業環境の改善ができた。

事故・災害への準備と訓練	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時手順書の整備と訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 火災避難・消火訓練（5月） 異常水発生時対応訓練・低圧漏電時の対応訓練・汚水処理設備自動停止時の対応訓練（7月） 三田近辺・兵庫県下の災害発生時対応方法調査 	全件予定通り実施済。
環境法令の順守	<ul style="list-style-type: none"> 法規制の変化に対する手順確立 法規制等登録簿への登録と対応 マニフェストを元に産廃の処理管理継続 化学物質使用量把握 新規産廃処理業者の見学 	<ul style="list-style-type: none"> 「環境配慮契約法」が新たに出来たので内容確認済 登録簿の作成と対応実施済 産廃処理委託契約書・産廃業者許可証の有効期限切れ・契約期間超過分の更新、保管漏れ分の入手（8月） 三田のスミタも「産廃管理票交付等状況報告書」を毎年6月の提出要請済 化学物質に該当する商品の年間購入量（09/2月～10/1月）調査、1月棚卸時保管量の調査（2月） 09年度より産廃の新規中間処理先になっているエスク三ツ川(株)への見学要請・実施（3月） 	2010年度も騒音・振動規正法の特定施設として、チャリンコ追加分2台の届出書類作成、カプリ追加1台・譲渡1台・廃棄1台の届出・登録取消書類作成と届出済分の内容再調査を実施済み。今年度分の産廃マニフェストの整備も実施できた。関連法調査と登録・対応については今後も順次実施予定。
環境知識・意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> エコ検定受験者累計50%以上へ 全体研修での外部講師講演・イベント開催 	<ul style="list-style-type: none"> 2年間で合計64人受験、累計51%へ 環境保全センターより外部講師を招いて講演実施、マイコップ作成・エコ検定練習テスト・エコクイズ等イベントも実施（6月） 	<p>全体研修では外部講師を招き新たな試みを実施し、また参加者の意識を高める為にマイコップ作成・エコクイズ等を行い、研修会を成功することができた。</p> <p>10年度も、視点を変え、趣向を凝らし、より有意義な研修会を行う。</p>

環境に配慮した
 さまざまな取り組みを
 行っています。



消火訓練



エスク三ツ川(株)見学

総括と2010年度（来年度）取組み

09年度は環境方針に掲げた6目標全てにおいて継続的改善に取り組み大きな成果が残す事ができ、最重要目標である二酸化炭素削減（省エネルギー）においても基準年対比 37%超・前年度対比 9%超と3期連続で好結果となった。

初年度（07年度）はインフラ整備による部分も目立ったが、この2期については、各種活動の積上げに拠るところが大きい。

社外環境活動は昨9月、有馬富士公園の森林整備に参加し工場として初めての実績が残せ今後の同活動にとっても有意義な年となった。又、カーボンフット商品の投入やエコ製本設備の増設と点数拡大等、生産活動以外での環境保全活動も定着した。

10年度においては各種活動の計画実施と環境目標達成を目指し活動を展開する事は勿論の事、事務局の増員、新環境管理責任者の選任（代表者との分離）、他事業所のエコ検定参加者募集、汚水処理装置・水銀灯のLED化・廃プラ圧縮機の設備の更新・導入等、会社を挙げて積極的に活動支援を継続する。

社外環境活動は六甲山系整備事業にも参画を予定しており、ひとりでも多くの従業員が参加出来る場を用意し09年度に始まった環境ボランティア活動を発展させる。

又、E A 2 1の全社的拡大にも指導的役割を担う予定で、他事業所の認証・取得に向けて働きかけと協力をを行い、12年12月までに本社を含む全事業所の認証・取得を目指す。

工場だけの活動に止まる事なく、脱地球温暖化社会実現に向けて尽力・貢献する。

代表者 奥村 豊

環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される施設等
消防法（危険物）	ガソリン・灯油・油性インキ・IPA アルコール
消防法（指定可燃物）	製品在庫
PRTR 法	第1種指定化学物質・・・届出不要
三田市火災予防条例 47 条	ボイラー（不使用）・変電設備
下水道法 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条	除害設備 特定施設（自動式フィルム現像洗浄施設・自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設）
水質汚濁防止法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例	特定施設・・・届出不要（自動式フィルム現像洗浄施設・自動式感光膜付印刷版現像洗浄施設）
廃棄物処理法 北摂三田テクノパーク公害防止協定	産業廃棄物（鉄くず・廃プラ・紙くず・混合物・汚泥・ウエス・産廃カレンダー）
騒音規制法 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条	チャリコ17台・カプリ7台・オフセット印刷機5台・台紙自動機1台
騒音規制法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例	エアコン室外機6台・エアコン送風機2台・エアコン室内機2台・グライNDER-5台
振動規制法 兵庫県環境の保全と創造に関する条例 北摂三田テクノパーク公害防止協定 8 条	オフセット印刷機5台・カプリ7台・エアコン室外機4台・エアコン室内機2台
労働安全衛生法	安全、衛生管理者の選任 安全衛生委員会の設置

カプリ：半自動社名刷込機、チャリコ：手動社名刷込機

環境関連法規制等の順守評価の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱は有りませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。